

上杉正一郎教授退任記念号の発刊によせて

上杉正一郎先生は、昨年3月、停年までまだ2年を残しながら本学を去っていかれた。教職員一同とともに先生との別れを惜しんだのがつい昨日のことのように思えるのに、あれから早くも1年が過ぎようとしている。もっとも、この間先生は、ゼミナールに参加していた学生の指導のために、病を患って大学に通っておられたのであるから、先生が本学を去られたと本当に実感できるようになるのは、今年3月を過ぎてからなのであろう。その意味では、先生の退任を記念して特集した本誌は、遅くもなく早くもないちょうどよい時期に発刊されることになったといえる。

上杉先生は、1939年に京都帝国大学経済学部を出られた後、かなり長い間、主として官庁に籍をおいて仕事をしておられ、大学の教壇に立たれたのは1952年になってからであった。しかし、研究者としての上杉先生の名は早くから広く知られており、統計学には門外漢の私であるが、戦後間もないころから先生が社会統計学派の指導的理論家として活発な発言をしておられたことや、先生の書かれた『マルクス主義と統計』を新鮮なおもいで読んだことなどをいまでも記憶している。

上杉先生が大阪市立大学から本学に移ってこられたのは、本学が新制大学として発足してからちょうど10年たった1959年のことであった。そのころの本学は、苦難に満ちた創業の時代を脱して、本格的な大学づくりにとりくんでいる最中であった。全学に活気があふれてはいたが、専任教員の数はいまの半分にもはるかに及ばず、校舎も現本館が完成したばかりで、大部分は木造であった。上杉先生は、当然、着任早々からこの大学づくりの隊列に加わり、その有力なメンバーとして、多くの寄与をされた。先生が本学にこられたころ、その後これほど長く本学に腰をすえられるようになることを予想しておられたかどうかは知らない。しかし、結局そういうことになったのは、さまざまな曲折があったにせよ、現在の本学を育ててこられたお一人として、本学に愛着を感じておられたからではないかと思っている。

上杉先生が本学にこられてはじめてお会いしたとき、この方があの上杉さんか、と意外に感じたことを私は記憶している。実は、専ら活字を通しての印象によって、もっと強そうなひとを想像していたからであった。しかし、その後20年余りの先生とのおつきあいにおいて、常に柔和な態度を崩さず、穏やかな語り口に変りはなかったが、その内面の強靱さと、ときには辛らつな皮肉も交えて発せられる言葉の切れ味の鋭さをしばしば思いしらされたものであった。上杉先生については、私が60年安保の翌年に健康を害して、兼務していた教務課長の職を投げだしたあとを引き継いでくださった（ただし、制度が変わって教務主任と呼ばれることになった）こともあって、私にはかなり多くの思い出がある。しかし、ここはそれを語る場ではない。また、先生の業績については、その専門の領域について語ることができる適当なひとに譲ることにする。

上杉先生は、減多にひとのかかることのない難病に冒されるところとなって、本学を去られた。先生御自身はもちろん、本学にとってもたいへんな損失である。また、私にとっても、このような拙い文章を書かなければならない破目に立たされたのは残念であった。しかし、上杉先生がこのまま隠遁してしまわれるとは信じたくない。また、医学の進歩が先生の御病状に光をもたらすことも期待できないわけではない。先生の御自愛を衷心より祈りながら筆をおく。

1982年1月31日

東京経済大学経済学部部長

渡 辺 渡

上杉正一郎教授年譜並びに業績

<年譜>

- 1912年 8月4日 東京に生まれる
- 1930年 4月 第一高等学校入学
- 1933年 4月 東京帝国大学経済学部入学
- 1935年 3月 同大学を退学
- 1936年 4月 京都帝国大学経済学部入学
- 1939年 3月 同大学を卒業，大連市事業調査局勤務
- 1940年 3月末 同局の閉鎖に伴い退職
- 4月 } 京都帝国大学経済学部大学院に在籍
~41年3月 }
- 1941年 7月 大連市調査室勤務
- 1945年 5月 陸軍に召集さる
- 8月 敗戦。大連に帰り職場復帰
- 1946年 1月 大連市政府教育局日僑事務科勤務
- 1947年 4月 帰国
- 6月 商工省調査統計局勤務
- 1949年 8月 退職。農林統計協会嘱託
- 1952年 5月 大阪市立大学商学部講師，助教授
- 1959年 4月 東京経済大学教授
- 1981年 3月 同大学を定年退職
- 4月 東京経済大学名誉教授

<業績>

I 著書

『マルクス主義と統計』（青木文庫）青木書店 1951. 11

『人口過剰論批判』（編著）日本評論新社，1956．12

『経済学と統計』青木書店，1959．7

『経済学と統計』改訂新版，青木書店，1974．4

Ⅱ 論文，研究ノート，報告，資料紹介，書評，随筆など

「広域経済の条件——フランツ・オイレンブルク著『広域経済とアウトルキー』の紹介」『経済論叢』53—1，1941．7

「シェパースの国土計画論」『経済論叢』55—1，1942．7

「支那黄土高原における土法炭鉱の経営形態」1945．5*

「丁佑教授の支那土法炭鉱論」（翻訳紹介）1945．5**

「日本の工業における添加価値並に剰余価値率の計算」『経済統計資料』15号，国民経済研究協会，金属工業調査会，1947．8

「日本の工業における剰余価値率の計算」東大新聞社編集部編『近代経済学の課題』1948．9 所収

「昭和22年工業統計速報について」商工省調査統計局編集『企業速報』No. 9

「中国共産党地区における日本人学校教育」（ペンネーム，山本民雄）『私の大学』2—1，1948．4

「日本工業における剰余価値率および利潤率の計算——昭和17年工業統計表による——」『国民経済』第6，7合併号，1948．9

「日本における工業構成の統計的把握」『国民経済』4—1，1949．1『経済学と統計』旧版所収

「近代理論経済学批判——中山教授の俗流性」伊豆公夫編『近代主義批判』同友社，1949．3 所収

「統計のおしゃべり——第3次経済白書批判」『社会評論』6—4，1949．6

「マルクス経済学研究会訳『マルクス金融論』Ⅰ」（『資本論』第3巻第5篇）青木書店，1949．4〔翻訳分担〕

「（主張）共産党と宗教」『調統新聞』1949．4．3

*)**）「東京経大会誌」本号に所収。

「(主張) 統計を守れ」『調統新聞』, 1949. 4. 15

「為替レートの問題(上)——労働者はいかに見るべきか——」『労働評論』
4—6, 1949. 6

「相場のきまり方——為替レートの問題(中)——」『労働評論』4—7, 1949. 7

「近代経済学誕生の歴史的背景」『経済評論』経済評論新社, 1949. 8

「複数レートと単一レート——為替レートの問題(下)——」『労働評論』4—
8, 1949. 11

「インテリ失業者座談会(大河内一男司会)」『文芸春秋』1949. 11

「アメリカにおける工業生産の集中」『国民経済』4—9, 1949. 9, (『経
済学と統計』旧版所収)

「零細工場統計調査の沿革」『経済統計月報』1950. 9

「統計上の失業と実際の失業」『雇用研究』1950. 11

「官庁統計による利潤率の計算」『マルクス, エンゲルス選集月報』18,
1951. 4

「物々しい統計の発表——アメリカ(統計調査余話)」『農林統計調査』1951.
No. 2

「文学と農産物(統計調査余話)」『農林統計調査』1951. No. 4, 5 合併号

「トルストイは農家の階層をどう分けるか(統計調査余話)」『農林統計調
査』1951. No. 4, 5 合併号

「農林統計に対する考え方——日本人のためになる統計を——」(全統計第3
回定期大会資料) 1952. 4

「日本の工業における剰余価値率の計算」『経済研究』3—2, 1952. 4

「『資本論』と統計」『講座) 資本論の解明』第4分冊, 理論社, 1952.
7. 所収, 『経済学と統計』旧版, 改訂新版所収

「生計の実態と賃金問題」『月刊労働』No. 48. 1952. 12

「原子力国際管理問題にかんする年表」(民科大阪支部原子力研究会討論資
料) 1952. 12. 20

「戦後における工業統計の諸問題」『産業経済研究』1953(春季特別号)
『経済学と統計』旧版所収

「国民生活」労働経済研究会編『労働経済四季報』第2集，1953. 7～9
所収

「数字のたたかい（争議調停と統計）」『労働経済旬報』205号，1953. 10
月上旬号

「日本の国力（目で見える社会科69）」毎日新聞社，1954. 5

「『資本論』年代順事項索引，長谷部文雄，鬼塚安雄編『資本論』全三
部索引，青木書店版所収，1954. 7

「戦後日本における国民所得統計」『日本資本主義講座』Ⅸ，岩波書店，
1954.（上杉正一郎，田沼肇，広田純，共同執筆）

「外国統計調査年表について」『経営研究』（大阪市立大学商学部）17，18，
1955. 2

「戦後における新マルサス主義」『マルクス・レーニン主義研究』4号，
1955. 2. 上杉正一郎編著『人口過剰論批判』日本評論新社，1956.
12. 所収

「日本標準産業分類について——経済統計の利用者のために」『統計学』1—
1，1955. 6. 『経済学と統計』旧版，改訂新版所収

オスカー・ランゲ著『統計理論』（書評）『統計学』1—1，1955. 6. 『経
済学と統計』旧版，改訂新版所収

蔽中平等編『中国近代経済史統計資料選輯』（書評）『統計学』1—3，
1956. 4

「日本の現段階における統計学の基本的課題」（経済統計研究会第1回会員
総会討議資料）1957. 7

「統計調査の社会性——津村善郎氏の著書を読んで」『経営研究』30号，1957.
9. 『経済学と統計』旧版および改訂新版所収

「経済統計学の基礎的諸問題——経済研究における統計の意義」『思想』
1957. 11. 『経済学と統計』旧版および改訂新版所収

「社会統計学（教養）産業統計論（専門）（研究の葉）『経営研究』33号，
1958. 2

「統計概論」昭和32年都道府県農業会議主任職員長期講習会講義録集，

全国農業会議所, 1958. 3

「過剰人口と失業——対決する二つの経済学(現状分析講座②)」『エコノミスト』1958. 3. 22

「統計をみるときの注意」『労働経済旬報』別冊付録『労働組合のための統計資料』No. 1. 1958. 10. 『経済学と統計』旧版 および 改訂新版所収。「統計をみるために」と改題

「資本主義 および 社会主義の人口法則——ソーヴィエ、アラブ=オグルイ、スムレヴィチ、張培剛等の論文について (紹介)」『貿易研究』第3号, 1959. 7

「いわゆる低開発諸国における人口問題——アルフレッド、ソーヴィエ『マルサスから毛沢東へ——世界の人口問題』1958. 8. の紹介」『貿易研究』4, 1959. 11

「書評について」東京経大図書館『収書月報』5—5, 1959. 12

エス・エヌ・バクーリン『資本主義諸国の貿易統計』(1952年) (書評), 『貿易研究』6号, 1960

「ソヴィエト統計学にかんする日本語文献」経統研(編), 1960

「資本主義諸国における第二義統計の諸形態」『統計学』8, 1960. 4. 『経済学と統計』改訂新版所収

「日本における第1回国勢調査(1920年)の歴史的背景——統計史にあらわれた日本資本主義の特質——」『貿易研究』7号, 1960. 7. 『経済学と統計』改訂新版所収

「第二義統計としての経済統計について」『東京経済大学60周年記念論文集』1960. 10. 『経済学と統計』改訂新版所収

「戦後の人口センサスにおける諸傾向——ポヤルスキー編『戦後の人口センサス』, 『貿易研究』9号, 1961. 2

「ソ連邦の貿易機関による景気研究法」『産業貿易研究』12号, 1961. 12

「工業統計における規模別グループ分け」『東京経大会誌』34号, 1962. 3

「人口の問題」『日本の地理』第8巻総論の部所収, 岩波書店, 1962

「戦後日本における人口動態の特質」『経済評論』1962. 5

「統計調査の社会的条件」『東京経大会誌』36号, 1962. 9

「統計調査の結果の整理について」『産業貿易研究特集号』1962. 11

「内海庫一郎氏の集団説放棄について」経済統計研究会第7回総会,
1963年7月, 京都での報告

「集団論について」『統計学』12号, 1964. 3

「朝鮮を見る」『現実と文学』1964. 3

「朝鮮への旅(1)」『東京経済大学学生新聞』1964. 3. 25

「朝鮮への旅(2)」『東京経済大学学生新聞』1964. 4. 25

「朝鮮への旅(3)」『東京経済大学学生新聞』1964. 5. 25

「朝鮮戦争と朝鮮人民のたたかい」(4)『東京経済大学学生新聞』1964.
7. 14

「統計学の研究体制についてのシンポジウム」(日本学術会議統計学研
究連絡委員会主催, 1964. 7. 3, における発言)

奥野定通『統計調査員の手引き』(書評)『統計学』13号, 1964. 10

「世界情勢と日本経済の問題点(中小企業等協同組合法施行15周年記念講演よ
り)『府商工だより』京都府商工部編, No. 157. 1964. 11

「統計および統計調査(講座)」『統計学』14号, 1965. 3

「数字でみた日本経済」(教養研修講演要旨)1965. 7. 19. 京都府職員研
修所

「工業統計」「剰余価値率」「人口問題」「新マルサス主義」「貿易統計」
大阪市立大学経済研究所編, 『経済学辞典』の項目, 1965. 9

「朝鮮民主主義人民共和国における統計事業」『東京経済大学創立65周
年記念論文集』1965. 10

「1930年代における資本主義的“計画経済”論議」『統計学』15号,
1965. 12

「統計とはなにか」内海庫一郎, 木村太郎, 三瀧信邦編『統計学』, 有
斐閣, 1966. 4. 所収

「経済統計(3)——工業統計」内海庫一郎, 木村太郎, 三瀧信邦編『統計

学』, 有斐閣, 1966. 4

「出生性比について」『現代の経済と統計』（蜷川虎三先生古稀記念）, 有斐閣, 1968. 5

玉井虎雄著『飢える地球——人口爆発と食料危機』（書評）『読書の友』1969.

5. 19

「全ソ連邦人口問題シンポジウム（1966年11月）について」『統計学』20号, 1969. 9

「朝鮮民主主義人民共和国における統計活動について」『統計学』21号, 1970. 3

「レーニンと統計（随想）」『経済』1970. 4 月特大号

「総人口一億, 人口減少県から出てくる大臣たち」『統計学』23号, 1971. 3

「統計学を学ぶために」『経済』No. 85, 1971. 5

大橋隆憲編著『日本の階級構成』（書評）『赤旗』1971. 7. 24

「ソ連邦における出生率の低下傾向について」『東京経大会誌』74号, 1971. 12

ブースミルヒ『神の秩序』第2版（本学蔵書紹介）『東京経済大学報』4～5号, 1971. 12

大橋隆憲編著『日本の階級構成』（書評）『東京河上会会報』28号, 1972. 1

「国会における統計論議——統計批判と統計利用」『東京経大会誌』77号, 1972. 7

「子供は二人までへの疑問」『婦人通信』1974. 9

「《シンポジウム》統計のたたかい——その成果と課題, 第1部『日本経済の統計指標』をめぐって」『経済』131, 132号, 1975. 3～4

「《シンポジウム》統計のたたかい——その成果と課題, 第2部『政府統計の批判と改革』をめぐって」『経済』134, 135号, 1975. 6～7

「日本の人口問題(1)〔年表〕」『東京経大会誌』93号, 1975. 12

「岩井浩, 政府統計批判へのコメント」『統計学』30号, 社会科学としての統計学——日本における成果と展望——創刊20年記念号, 1976. 3

「政治と統計——選挙予測について」『東京経済大学新聞』273号，1978.

1. 24

「革新と保守」『民主文学』No. 150，1978. 5

「『資本論』における統計」岡本博之他監修『マルクス〈資本論〉の研究』下，所収，1980. 10